

恵みと真理のニュース



2013年12月の四次 恵みと真理教会
 韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養5洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

神様は胃癌を治してくださり

恵みと平和で生きるようにしてくださいました。

私が生まれ育った所は偶像崇拜が盛んに行なう田舎の山の村でした。正月になると村では深い山の下で大きい岩と古木などで祭祀を捧げ占い師が偶像祭祀を捧げる音が家々ことに終わらなかったです。私が初めて教会に行った所は軍隊でした。下士官学校へ入教して受けた教育がとても大変で特に教育訓練がない日曜日にもっと酷くなる先輩の横暴で避難したところが軍隊の中にある教会でした。一番後ろに座って目を閉じてちょっと眠ったら礼拝が終わりました。6ヶ月間長い教育を終えて終了するときには賛美歌何曲と御言葉の何節を覚える事ができました。除隊してから就職して結婚しました。妻の家もナクリスチャンでした。1男と2女を産んで団欒な家庭をつくり暮らしました。妻は隣りの家で住む首区域長が恵みと真理のニュースを私の家の郵便箱に入れておくと神様がどこにいるのかと言いながら恵みと真理ニュースをそのままゴミ箱に捨てるほど福音を受けなくて教会に通う人を嫌う人でした。どこかある日恵みと審理のニュースに載せている証を読んだ後、妻の心が変わり始めました。そして聖書をプレゼントでもらったまに読み新約聖書に出るイエス様が去った奇跡が妻の心を動きました。首区域長を従って教会に行った妻は礼拝に参席すると心が平安になり感謝する心ができると言われました。時間が経ち信仰が成長した妻は何よりも全ての家族が教会に出て奉仕し礼拝する事をうらやましがってました。私はその時に世の楽しみに落ちて暮らしました。お酒と博打に酔って放蕩な生活しながら決局多くの謝金で日々が楽しくなると疲れの連続でした。恐れと緊張と恐怖が襲われたらまたお酒を飲む生活を繰り返しました。私がこのように生きてくると妻の信仰がもっと堅くなり神様を畏れ委ねました。私のために切に祈りました。特に私が教会に行くまで毎日朝の断食祈りをしながら期

間を決めて神様を仰ぎました。妻が祈りして21日になる日私がついに神様の恵みで教会に導かれました。その後、私も信仰が成長しながら御言葉と聖霊の権能で世の全ての誘惑を勝ち放蕩な生活を終えて新たに生まれた者に合う清い生活をするように頑張りました。変わった私が自分の姿を見ながら、恵みを体験し神様が共にいらっしやって万時が益となる事を深く悟りました。熱心に礼拝を捧げ奉仕に積極的に参加しながら和やかな家庭になり賛美の音が終わらなくなりました。世月が経って妻は勤士になり私も長老になりもっと喜びで感謝しながら主の中で祝福ある生活をしました。私が運動が好きで普通に銅山、テニスを楽しくしましたがある日から息苦しくなり体に力がなくて疲れが取れないと感じました。病院に行って総合検査を受けた結果、胃癌でした。瞬間的に天が崩れるほど言葉で表現できない空しさを感じ自分が落段して私の無力を感じました。“あ！このままで神様のところに行くんだ”落段して絶望する私に“なぜ、このくらいになるまで何を今来ましたか？”と医師は叱りました。“今までどんな症状もなく消化もよくでき健康でした。”と言うと“気の毒ですね。”と一言で言うほど私の体の状態は酷かったです。医師が患者の前で慰めはるかかのように言うのと患者はただ目の前が見えなくてどんな希望も持つことができずしてました。しかし私はすぐ心を治して生死祝福も主が治めるので私の全てを主に担えました。今まで主を愛しなくて仕えなかったことを悔い改めて再び機会を与えてくださることを願いながら恵みの主の前で助けを求めました。御言葉で天地をつくり、水でぶどう酒をつくらせ、水の上を歩き、死んだらザロを生き返して無から有を創造する方が神様で私を愛し私の天の父であることを告白し当会長牧師がくださる神様の恵みで大きい慰められ心が強くなりました。“恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け／わたしの救いの右の手であなたを支える。

(イザヤ書 41:10) “わたしは主に求め／主は答えてくださった。脅かすものから常に救い出してくださいました。(詩篇 34:4) 教区で期間を決めて祈りをしてくださり多くの方々が祈ってくださる中で神様の恵みで愛を与えてくださり胃の全体とリンパ線まで切除する大きい手術でしたが成功で終わり、体が早く治りました。手術室に入る前にイザヤ書 53章5節 “彼が刺し貫かれたのは／わたしたちの背きのためであり／彼が打ち砕かれたのは／わたしたちの咎のためであった。彼の受けた懲らしめによって／わたしたちに平和が与えられ／彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた。”御言葉を何回覚えながら大きい慰めと信仰の力を得ました。抗癌治療なく早い時間に消化もよくでき健康も回復されるように導いてくださった神様の恵みに感謝と賛美を捧げながら栄光を主に捧げます。手術後、治療を受けた家庭で御言葉は蜂蜜よりも甘くて力を発揮し、どんな両刃の剣よりも鋭く神様の御言葉は私の心に力と希望になりました。苦難と痛さ、悲しさがあるとしても神様の御言葉で十分勝つことができるように慰めと平安をくださり御言葉に驚くほどの権能があることを体験しました。定期検査で医者先生が私に元気ですか？おめでとうございませう。体の全ての状態が安定するところですよ。医者から言われました。ハレルヤ！私は今死んでも生きても主だけ委ねられた職分と使命に最善を尽くして忠誠奉仕し献身しながら生きてます。毎朝眠りで起きると“神様 感謝します。神様、愛します。神様委ねます。神様幸せです。”告白しながら一日を始めます。神様は私達の家庭で物質の祝福も与えてくださいました。神様がくださった健康な体と物質で心と思いを尽くして愛しながらただ主だけ栄光ため生きてます。主らバ(治療なさる主)神様、限りなく慰めと愛と権能を与えてくださり私を治療してくださいました。よい神様私の神様に感謝します。



【信仰コラム】

私(わたし)たちが楽観(らっかん) (楽(楽)観(かん))しながら生(い)きている理由(りゆう)

“わたしたちは、四方から患難を受けても弱しない。途方にくれでも行き詰まらない。迫害に会っても見捨てられない。倒されても滅びない。”(コリントの信徒への手紙二 4:8、9)

身過(みす)ぎ世過(よす)ぎとはあまり順調(じゅんちよう)ではないという事を否定(ひてい)する人(ひと)はいないはずですよ。人生(じんせい)はまるで障害(しょうがい)物(ぶつ)競走(きようそう)として行(ゆ)く手(て)に様々(さまさま)な難(むずか)しくて大変(たいへん)な難関(なんかん)が置(お)かれています。問題(もんだい)が全(まった)くない所(ところ)はこの世界(せかい)のどこにもありません。どうせこのような世(よ)の中(なか)で暮(く)らすようになったのでどんな心得(こころえ)として生(い)きていくのか、ということが非常(ひじょう)に重要(じゅうよう)です。当面(とうめん)の問題(もんだい)と状況(じょうきよう)は勝手(かって)に主管(しゅかん)しなくても自分(じぶん)の心構(こころがま)えは調節(ちょうせつ)できます。人生(じんせい)を楽観(らっかん)しながら生(い)きて行(い)くのが人生(じんせい)の知恵(ちえ)です。楽観(らっかん)とは人生(じんせい)や世(よ)の姿(すがた)を楽(た)しくて希望(きぼう)的(てき)な事(こと)とすることを意味(いみ)します。悲観(ひかん)的(てき)な態度(たいど)で生(い)きていけば状況(じょうきよう)がさらに悪化(あくか)する確率(かくりつ)が高(たか)いが、楽観(らっかん)的(てき)な態度(たいど)で生(い)きていけば彼(かれ)が直面(ちよくめん)している状況(じょうきよう)を積極(せっききよく)的(てき)で進取(しんしゅ)的(てき)に立(た)ち向(む)かいながら変化(へんか)させます。イスラエルの偉大(いだい)な族長(ぞくちよう)であるアブラハム、落(お)ち穂(ぼ)、ヤコブ、ヨセフこの4人(にん)が彼(かれ)らが直面(ちよくめん)した様々(さまさま)な状況(じょうきよう)でどのような気持(きもち)を持(も)って対処(たいじょ)していたかを見(み)ると、このような真理(しんり)を確実(かくじつ)に悟(さと)ることができます。

アブラハムとイサクはかなり楽観(らっかん)的(てき)に行動(こうどう)しました。しかし、時(とき)には悲観(ひかん)的(てき)な振(ふ)る舞(ま)いもしました。妻(つま)

に自分(じぶん)をお兄(あに)さまと呼(よ)ぶようにして言(い)うようにして神(かみ)様(さま)を頼(たよ)らず、楽観(らっかん)的(てき)な姿勢(しせい)で生(い)きていないのは彼(かれ)らの生涯(しやうがい)の記録(きろく)に傷(きず)を残(のこ)しました。ヤコブはアブラハムとイサクに及(およ)ばなかったです。ところでヨセフはとて出(と)くしゅつ)します。ヨセフは奇妙(きみょう)だとするほど楽観(らっかん)的(てき)にすべての問題(もんだい)や状況(じょうきよう)に対応(たいおう)しました。兄(あに)たちによってエジプトに売(う)られて警護(けいご)長官(ちようかん)の下人(しも)になり、その後(あと)も、試練(しれん)が重畳(じゆうじよう)されたが、ヨセフは悲観(ひかん)的(てき)に考(かんが)えていませんでした。悪(あく)を善(ぜん)に変(か)える神(かみ)様(さま)を徹底(てってい)的(てき)に信(しん)じていつも楽観(らっかん)的(てき)に思(おも)って行動(こうどう)しました。神(かみ)様(さま)はヨセフの態度(たいど)が正(ただ)しいたということを証明(しょうめい)してくださいました。

今日(きょう)の聖徒(せいと)たちは楽観(らっかん)的(てき)に生(い)きる数(かず)多(おほ)くの証(し)を保持(も)っています。数(かず)多(おほ)くの信賴(しんらい)の偉人(いじん)らが先(さき)に行(い)きながら手本(てほん)を見(み)せました。そして、旧約(きゆうやく)に記録(きろく)された予言(よげん)が成就(じゆうじゆ)しました。特(とく)にイエス・キリストの生涯(しやうがい)と死(し)と復活(ふっかつ)昇天(しょうてん)を通(つう)じて神(かみ)の善良(ぜんりやう)心(こころ)と忠実(ちゅうじつ)心(しん)が完全(かんぜん)に証明(しょうめい)されています。神(かみ)様が約束(やくそく)したとおりで、昇天(しょうてん)した後(あと)聖霊(せいれい)様(さま)を送(おく)ってくださいました。私(わたし)たちは聖霊(せいれい)様(さま)の教(おし)えて案内(あんない)して慰(なぐさ)めて手伝(てつた)っている恩(おん)を受(う)けて信仰(しんこう)生活(せいかつ)をしています。私(わたし)たちは肉体(にくたい)の帳(とばり)が落(お)ちたら、私(わたし)たちの内人(うちん)が天使(てんし)たちにとられて天国(てんごく)に引(ひ)き渡(わた)され、なることを知(し)っています。すべての聖徒(せいと)たちは神(かみ)様(さま)の前(まえ)に立(た)つようになることで神(かみ)様(さま)が各(かく)人(にん)が行(おこな)ったとおり賞(しょう)をくださるの

です。福音(ふくいん)を伝(つた)えてキリストの体(からだ)の教会(きょうかい)のために時間(じかん)と財物(ざいぶつ)をして苦勞(くろう)した聖徒(せいと)は神(かみ)様(さま)がくれる称賛(しょうさん)と栄光(えいこう)と尊貴(そんき)を得(え)ることになることです。苦難(くなん)の中(なか)にも神(かみ)様(さま)を相(あい)変(か)わらず愛(あい)して仕(つか)えた聖徒(せいと)に約束(やくそく)した言葉(ことば)があります。ローマ書(しよ)8章(まい)18節(せつ)に“わたしは思う。今のこの時の苦しみは、やがてわたしたちに現(あら)われようとする栄光(えいこう)に比べると、言うに足りない。”しました。

私(わたし)たち人生(じんせい)の道(みち)には予期(よき)せぬ苦境(くきやう)と、望(のぞ)まない困難(こんなん)があるものです。こんなことをしているとき聖徒(せいと)は一時(いちじ)的(てき)で部分(ぶぶん)的(てき)には懸念(けんねん)して恐(おそ)れて落胆(らくたん)することもできます。しかし総体(そうたい)的(てき)には楽観(らっかん)的(てき)になります。“あなたは予期(よき)せぬ苦境(くきやう)と、望(のぞ)まない困(こま)つても楽観(らっかん)的(てき)な態度(たいど)を堅持(けんじ)することができますか？”という質問(しつもん)について皆(みんな)さんは“私(わたし)は神(かみ)様(さま)の口(くち)約束(やくそく)を信(しん)じ、聖霊(せいれい)様(さま)の助(たす)けることを意志(いし)するので楽観(らっかん)的(てき)な態度(たいど)を堅持(けんじ)することができます。”と答(こた)えてくださいました。“私(わたし)は四方(しほう)へつつまれても包(つつ)まれずにもどかしいことを受(う)けても落胆(らくたん)しない、逼迫(ひつぱく)を受(う)けても捨(す)てたことがでげずに打倒(だとう)を受(う)けても失敗(しっばい)を調整(ちょうせい)することができます。”と話(はな)していただけることを願(ねが)っています。(チョヨンモク牧師(ぼくし)様(さま)信仰(しんこう)コラム‘青(あお)い超(ちょう)清(きよ)い流(なが)れ’お話(はなし)中(ちゆう)で)

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム ‘緑の牧場、清い川’ 本の語り中」



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

イエス様の誕生に係わって聖書には多数の人々が登場します。彼らの中に一番の中心は当然マリアです。そしてマリアと縁定めしたヨセフです。その以外の人々はサガリヤとエルリサベツ、東方博士たち、エルサレム住民たち、ヘロテ王と書記官たちです。そして野で羊を飼った牧者たちがあります。除くことができない人がまたいます。シメオンとアンナです。しかしクリスマス礼拝ではなければ説教者たちがこの二人に関してはあまり扱わないです。聖書に出るどんな人物たちは一年の間何回繰り返して引用されるとき説教の中心に扱います。こんな事実を勘案したらシメオンとアンナに対して記録された言葉も重ねて詳考してその教訓を新しく肝に銘ずる必要があります。シメオンとアンナに関する話で得るようになる神霊なメッセージは私たちの胸に深い感動を起こして深い感銘を与えます。

今年クリスマスはシメオンとアンナに関して記録された言葉を詳らかによく見ます。

先に、シメオンに関して記録された言葉をよく見ます。

シメオンの出身に対しては紹介されたのがないです。ただ“エルサレムにシメオンという人がいた”と記録されただけです。彼の家門や身分に係わる内訳があまり重要ではないからです。しかし引き継いで記録されるのを“この人が義のあって敬虔でイスラエルの慰労を待つ者だと聖霊がその上にいらっしやっていた”としました。重要なことは正しくこれです。これは彼の出身と家門や社会的身分に関する明細より良いのです。“義のあって敬虔だ”と言うのは神様との関係を説明してくれる表現です。神様のみ旨を従って行おうと細心で慎重な姿勢に生活する人を称える言葉です。シメオンは事毎をいつも神様との関係で思って判断しながら行動する人でした。彼には神様との正しい関係の中で住むよりもっとまずされて重要なものがなかったです。シメオンは“イスラエルの慰労を待つ者”でした。これはシメオンがメシヤがいらっしやるのを大望したことを言ってくれます。またシメオンに関して記録されるのを“聖霊がその上にいらっしやっていました”“聖霊の指示を受けたら”“聖霊の感動で聖殿に入った”と言いました。シメオンは聖霊の交通なことを持続的に体験しながら暮らしたのです。義のあって敬虔なシメオンはある日驚くべきな啓示を受けました。“彼が主キリストを見る前に死ななからうする聖霊の指示を受けた”と本文に記録されています。聖霊がシメオンに啓示なさるのを“死ぬ前にメシヤを見よう。”その知らせてくださったことです。

シメオンとアンナ

ある日シメオンが聖霊様の導くことを受けて聖殿に入った時“その赤んぼう”を抱いて来るマリアとヨセフを見るようになりました。マリアとヨセフは浄潔の儀式の日が満ちたし犠牲のお供えを差し上げようと聖殿へ来たのです。浄潔の儀式の時には燔祭と贖罪祭を差し上げたが燔祭は出産に対する感謝と献身の表示だったし、贖罪祭は不正をとり除くためのことでした。シメオンは若い夫婦が赤んぼうを抱いて聖殿で入って来ることを見る瞬間その赤んぼうがまさに自分がそのように大望したメシヤというのが分かりました。彼はその若い夫婦に近付きました。“こんにちは、私がおの赤んぼうを抱いて見たいのに承諾して下さいますか?”シメオンはその赤んぼうが抱くようになると聖霊が啓示なさったとおりに彼が死ぬ前にメシヤのいらっしやるのを見られたという事実が嬉しくて慌惚でした。加えることができなく幸せでした。彼はこれ以上ねがうのがない充分な心情で神様を讃嘆しました。“神様、もう神様の言葉のどおり神様のしもべを平安に放してやります。私の目が神様の救援を見たからです。これは主がすべての民の前に予備なさったことであり異邦人たちを照らす光であり、神様の民イスラエルの光栄です。”

神様の救いを見た人々はシメオンのように“神様、これからはしもべを平安に放してやります。”と言えます。この言葉は“神様、これから私は死んでも満足します。平安に去ることが出来ます。”という意味です。この世の中を生きる間に救世主イエス様を信じて救われた人は死ぬ時になればこれからはこの世の中で苦勞をやめて神様の国で来なさいと呼ぶことと分かって平安に眠るようになります。死んだ後には永遠な安息を享受するでしょう。シメオンは聖霊が啓示なさった言葉を全然疑心なしに受け入れて固くつかみました。そしてその言葉どおりメシヤを見ました。そんなにして“神様、これからはおっしやるとおりこのしもべを平安に放してやるのです”と言いました。シメオンは感激にあふれる声で“これは万民の前に予備なさったことであり異邦を照らす光であり主の民イスラエルの光栄だ”と讃嘆しました。シメオンは世の中の果てまで及ぶ救世主の光栄と恵みを讃嘆しました。救援の福音がすべての民族すべての国で伝えることを歌いました。“イエスキリストは暗さの中にある者に救いの光です。彼の選んだ民に光栄だ”。この讃嘆はシメオンが讃嘆して干証したクリスマスのメッセージです。

次は、アンナに関して記録された言葉をよく見ます。

アンナの場合は身分と生の背景が詳らかに紹介されました。“アセル支派バヌエルの娘アンナという予言者がいて年が非常に老けた彼女が嫁入りした後七年の間ご主人と一緒に住んで行ってやもめになってから八十四年と”言いました。結婚生活7年ぶりにご主人を死別して青孀寡婦になって84年の間一人で過ごしました。アンナは極甚な悲しみと孤独を経験しなければならなかったが信仰でこれをすべて乗り越えました。アンナが聖殿を離れなくて禁食しながら祈って神様を仕えました。アンナには礼拝と祈禱と仕えることが生の最大の楽しみでした。

詩編記者は“あなたの家に住み、常にあなたをほめたたえる人はさいわいです あなたの大家庭にいる一日は、よそにいる千日にもまさるのです。わたしは悪の天幕にいるよりは、むしろ、わが神の家の門守となることを願います。”(時 84:4,10)と言いました。

アンナは聖殿を離れなかったという言葉は家へ行かないで聖殿にだけあったという意味ではなく聖殿を慕いながら集まるのを力をつくしたという意味です。

ヘブル人への手紙 10章 25節に“ある人たちがいつもしているように、集会をやめることはしないで互に励まし、かの日が近づいているのを見て、ますます、そうしようではないか。”と言いました。私たちが聖殿で祈ることを楽しさと慰安にしなければなりません。私たちが祈る時神様が耳を傾けて聞きます。切に求める時権能の上った手を突き出します。叫ぶ時彼の使子たちを送ってくれます。祈れば懸念が退きます。喜びが湧き出します。神様と親密な付き合いを持つようになります。回答を受けます。聖殿で神様を仕えることを楽しいこととしなければなりません。教会と聖徒のための献身と奉仕の楽しみが分かるようになった人はアンナのような境地に至った聖徒です。

アンナは在世にメシヤを見るはずだという聖霊の啓示は受けることができなかったです。しかし救世主がいらっしやるはずだという期待の中に住みました。そうしたある日驚くべきことに聖殿でシメオンの讃嘆を聞くようになりました。そして聖霊の導くことでその赤んぼうがメシヤと分かるようになりました。“いよいよメシヤがいらっしやったな!”この瞬間アンナの84年の仕えることと待つことは大変恵まれて栄え榮えしくて価値あるようになりました。本文に“やっと時が出て来て神様に感謝して”という言葉があります。聖書には非常に簡潔に表現されたが実際にアンナの心霊には感動と喜びが洪水のように押しかけました。そして“エルサレムのあがないを望むすべての人にこの赤んぼうに対していうのだ”と言いました。アンナはイエスキリストがメシヤだと彼女が会うすべてのユダヤ人たちに言いました。

皆さんは救世主による感激と喜びを持って会う人に“私はメシヤに会いました。イエスキリストを迎えた後私の生が変わりました。新しくなりました。運命が変わられました。所望があふれるようになりました。”と証言なさってください。“イエスキリストだけが私たちの生に真正な理由になって目的になります。私たちのためにこの世の中へいらっしやった神様、死んで復活したイエスキリストだけが私たちに救援を授けます。あなたもイエスキリストを今迎接してください。”と証言なさってください。シメオンはメシヤを見て喜びに讃嘆しました。“神様、私がもう主の救援を見ました。”アンナはメシヤを見て感激する心から感謝してその時間から人々に救世主に対して言い始めました。二千年前の童貞女の身に聖霊に孕胎されて人間の身を着たイエス様は私たちの罪をあがなうため世の中へいらっしやったメシヤです。救世主です。誰でもイエス様を信じれば救いを得ます。これがクリスマスのメッセージです。この驚くべき愛と恵みと真理が分かるようになった皆さん、救世主を信じて迎接した皆さんはシメオンとアンナよりも大きい喜びと感激に讃嘆して福音を伝えるように願います。